

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671600241
法人名	有限会社 健勝館
事業所名	グループホーム ひやくぼ
所在地	〒621-0126 京都府亀岡市西別院町犬甘野小谷11番地 (電話) 0771-27-8920

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年9月11日	評価確定日	平成21年10月5日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 5 月 1 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.55 人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 350,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

## (4)利用者の概要( 5 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	亀岡病院、柿花診療所
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

亀岡市の農村部に位置し、田んぼと山に囲まれた静かな環境にあるホームです。閉鎖的な地域にあり、関係性を働きかけはするものの、進展を見ないのが現状です。管理者の強い思いである「介護は結果から」をモットーに、利用者に対し何が出来るかではなく、何をしたいかを常に考え、利用者がゆったりとやりたいように、型に捉われないケアを実践されています。また単なるケアマニュアルやシフトに頼らず、職員は指示によって動かされるのではなく、職員自らが考え主体的に動き「考える介護」を実践しています。薬に頼らず、寝たきりにせず、利用者の転倒を恐れる事より、動ける喜びを感じてもらうことのほうが大切であると捉えています。家族もホームの方針に共感しており、週に一度は来訪し、共に過ごしています。「本来のグループホームとは何か」をいつも追求されているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題でもあり、行政にも指摘を受けた運営推進会議への出席を、民生委員と自治会長に呼びかけ話し合いましたが、良い返事は得られていません。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、日頃の話し合いの中で出ている職員の声を管理者が代弁して作成されました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2カ月ごとに家族、地域住民、市担当者、地域包括支援センター、管理者、職員が参加して開催されています。ホームの取り組みや現状について報告がなされ、参加者の意見を聞くなどの内容の会議となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は利用者と家族が一番であるとの考えから、ホームが向上していくために、家族の意見はほめ言葉ではなく苦情や要望を頂くよう伝え、直接意見を聞いています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活における地域との連携についての取り組み方法を、模索しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ホームは家・利用者は家族」との理念を掲げ、理念の如く、利用者や家族、職員は一つの家族と認識しています。また形式に捉われず、ゆったりとやりたいように過ごして頂き、利用者の性格や以前の環境を分析しながら、一人ひとりにあったケアの在り方を考え職員一人ひとりが行動しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されています。職員は会議や書類等、組織化されたものだけに束縛されず、職員一人ひとりが、常に自主的に何をしなければならないのかを考え、理念からブレない行動をとっています。また、それらを集約して個々の利用者についての気づきやケアの仕方等職員間で話し合い、実践に繋げています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	閉鎖的で因習に縛られた地域の中で、開設以来地域との関係を保つため働きかけを行ない、地域の区長とも今後の方向性について協議しています。散歩の途中で近隣の人に挨拶したり、ホームの周りの清掃や整備をし、関係性を模索しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の課題でもあり、行政にも指摘を受けた運営推進会議への出席を、民生委員と自治会長に呼びかけ話し合いましたが、良い返事は得られていません。また今回の自己評価票は、日頃の話し合いの中で出ている職員の声を管理者が代弁して作成されました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月ごとに家族、地域住民、市担当者、地域包括支援センター、管理者、職員が参加して開催されています。ホームの取り組みや現状について報告がなされ、参加者の意見を聞くなど、定型化された中での名目上の会議となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議への出席もあり、顔馴染みの関係です。事故報告書等は報告し、相談事があれば訪れて指示を仰いでいますが、適切な対応は得られないのが現状です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を具体的に記載し、手紙にして郵送しています。その際、金銭管理の報告として、立て替え金の収支報告をしています。また伝えたいことはたくさんあり、頻繁にある来訪時や電話で良いことも悪いこともそのまま報告し、本音で話し合える関係が築かれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者や家族が一番であるとの考えから、ホームが向上していくために、家族の意見はほめ言葉ではなく苦情や要望を頂くよう伝え、直接意見を聞いています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は全くなく、馴染みの関係でのケアが実現されています。管理者が最終責任者となり、職員が自由に考え行動できるよう配慮することで、思いを一つにしてケアにあたる事が出来ています。常に話し合う事で何でも解決し、ストレスが溜まらないよう配慮しています。管理者の配慮で研修や実習後に美味しい物を食べるのも職員のストレス解消となっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番にどの職員も行けるよう配慮しています。研修の際は、ただ行くのではなく、何をしたいか、知りたいかについて目的意識を持って臨むよう指導しています。又、職員自身も自主的に学びたいと思う気持ちを持って望まれるため、研修の効果が高まっています。研修後はレポートを提出し、職員間で共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性や生活歴の違いによって、認知症の実態も変わってくるため、地域を選んでホームを決め、職員の実習に繋げています。ホームでも他の職員を受け入れています。管理者は職員により多くの現場を見て、ホームでの実践に活かしてほしいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をお願いし、当該ホームのみならず、多くを見てもらい本人に合った所を探すようアドバイスしています。見学の際にはリスクやホームの対応について話し、納得してもらってから入居して頂いています。入居後の環境の変化に対する精神的変化は押さえようがなく、なすがままの状態を受け止め、制約することなく徐々に馴染めるように過ごしてもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは常ににぎやかで、利用者と職員の間で活発な言葉のやり取りがされています。いつも笑いの絶えないリビングですが、喧嘩をすることもあり、利用者と職員の壁は取り払い、人間対人間の付き合いをしています。一人の喜びは皆の喜びであると捉えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声をかけ、スキンシップを図ることで表情や反応から、利用者の思いや様子の変化等を把握しています。それらが訓練となり、思いを口に出せるようになった利用者も多くいます。思いに対する耳の傾け方によって対処も変わってくることに配慮し、職員間で話し合いを持ち、把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランで1番大切にしている所は、利用者や家族の希望であり、希望に沿ったケアプランを作成するために、職員間で話し合っています。書類に翻弄されるのではなく、何が大切かを考え、作成しています。職員は利用者のニーズを把握して、出来る支援ではなく、したい支援を実践しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎に見直しを行い、更新されています。記録より実践が大切と、変化がある場合のみ記録に残っています。見直しの際に記録を振り返り、症状やケアの実態を分析し、重度化を防ぐための次へのケアプランに反映させています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きたい時の散歩や嗜好品の買い物に同行しています。毎年恒例の2泊3日の旅行も継続して行なっています。また入院した利用者の機能と精神力の低下を防ぐため、早期退院を実現し、回復に至るまで付き添い介護にあたるなど、ホームに帰りたいとの利用者の思いを大切にしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所の医師による往診が定期的にあります。ホームでは出来るだけ薬は使わず、便秘の際もおなかのマッサージや食物で自然な排出を促しています。緊急時には診療所の医師の指示を仰いで、対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ホームではターミナルケアは美徳ではない」との方針で、ホームとして出来るのは介護の部分であり、口物が入らなくなった場合には医療に委ねることとしています。家族の意向も大切に医師の協力を得ながらも、どんなに重度化してもホームにいる間は寝たきりにせず、口から栄養を取ってもらい、入浴も行なう等の支援をされています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の一見乱暴に見える声かけや対応も、利用者の脳を刺激し活力を引き出す原動力となって、利用者自身の言葉となって返ってきています。個人のファイルは棟違いの事務所に保管され、出入りが無い時は施錠しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由でのびのびが一番と、少々のけがや転倒を恐れることなく、動いて好きな事が出来る喜びを味わってもらっています。車椅子から転げ落ちることも、動けるようになった証と捉え、職員はリスクを恐れることなく見守りに徹し、家族の了解をも得て、利用者は縛りのない自由な暮らしを実現されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望を聞き、冷蔵庫の中身を見て当日の勤務者がメニューを決め、後の参考としてメニューや材料の量まで記録に残しています。出来ることは一緒にし、全員のおしゃべりが聞こえてくる賑やかな食事風景が見られます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴も大事なりハビリと捉え、いつでも好きな時間帯に入浴でき、毎日でも入れるよう支援しています。1日に2回入浴希望して入浴される利用者もいます。拒否が見られる利用者はいません。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一緒に暮らす中で、自然と役割が出来、口で指示する人やそれに従う人、畑や草むしりを仕事とする人等利用者同士も協力しながら生活されています。リビングで過ごすことが多い利用者にとっては、一緒におしゃべりすることが一番の楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は自由に散歩したり、畑に出かけています。また嗜好品の買い物にも出かけています。広い庭先で日光浴したり、草むしりやお茶を楽しんでいます。毎年2泊3日の旅行を企画し、下見や細かい計画を立て実行に結び付けています。利用者、家族、職員共一人の反対も無く、全員参加の楽しみな行事となっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけずに、自由に庭に出て楽しんでもらっている。また行動を抑制することはしない方針であるので、外に出たい時は、自由に出てもらっています。玄関先で自分で椅子を移動し好きな場所で日光浴を楽しんだり、草むきや木を削っている利用者もいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「火事は絶対に出さない」を合言葉に、職員は常に確認を怠らないようにしています。知人の消防士のアドバイスを受け、定期的に自主訓練し、混乱しながらも利用者にも参加頂き、煙を吸わないようにゴミ袋をかぶって誘導したり、初期消火の講習を行っています。ホームでは、近隣の援助は頼らないでも対応できるように、自主的に災害対策に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には気を配り、汁もので提供したり、食後やおやつ時に十分取れるよう配慮しています。食事内容も当日の利用者個々の様子や体調に応じて、一人分だけ変更したり、早期退院の利用者に栄養補助剤を口に少ずつ含ませるなど支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家改修型のホームで、玄関先の庭が広く洗濯物が風に揺れ、そこでは日光浴を楽しんだり草ぬきする利用者の姿が見られます。リビングをホームの真ん中に配し、周りを居室で囲んだ造りとなっており、スロープや手すりを設け、安全に配慮されています。また玄関先の椅子やリビングのソファ等、思い思いに過ごせるスペースをも確保しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口はドライフラワーを飾ったり、小さなぬいぐるみを飾り、自室がわかりやすくしています。利用者は自宅よりベッド、家具等馴染みの物を持参され、家族と相談しながら配置を決めています。		